

JENESYS2018 ASEAN 招へいプログラム第 16 陣の記録

日本文化交流 対象国：インドネシア

文化芸術交流 対象国：シンガポール

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2018」の一環として、インドネシアから大学生10名（ダルマプルサダ大学）、シンガポールから大学生15名が、2018年12月4日～12月11日の日程で来日し、インドネシアの学生は「日本文化交流」をテーマとしたプログラムに、シンガポールの学生は「文化芸術交流」をテーマとしたプログラムに、それぞれ参加しました。

一行は、都内での講義の聴講及び視察後、国別グループに分かれ、インドネシアは大阪府と兵庫県、シンガポールは愛知県を訪問し、テーマ関連施設の視察、関係者や同世代との交流、ホームステイを行い、日本で出会った人々と友情を育みました。また、地域の人々との交流を通じて日本についての知見を深め、日本の魅力に触れる機会を持ち、各々の関心事項や体験についてSNSを通じて对外発信を行いました。帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】 2か国・25名（内訳）インドネシア10名、シンガポール15名

【訪問地】 東京都、大阪府・兵庫県（インドネシア）、愛知県（シンガポール）

2. 日程

	インドネシア	シンガポール
12月4日（火）	来日、【オリエンテーション】	
12月5日（水）	【文化視察】江戸東京博物館 【日本理解講義の聴講】 講師：東京外国語大学 VOLASボランティア・コーディネーター 木下 理仁 氏	【テーマ関連の視察】 東京国立近代美術館工芸館 【視察】秋葉原 東京都から愛知県へ移動
12月6日（木）	東京都から兵庫県へ移動 【関係者との意見交換会】 神戸インドネシア友の会 【最先端技術視察】神戸海洋博物館・カワサキワールド	【学校交流】中京大学 【文化体験】徳川美術館・徳川園
12月7日（金）	【学校交流】大阪国際大学 【ホームステイ】兵庫県 （神戸市、西宮市、州本市、伊丹市）	【テーマ関連の視察】 とこなめ陶の森 陶芸研究所 【地域概要の聴講】常滑市 【文化体験】陶芸体験

		(於：陶芸体験処 晴光) 【ホームステイ】常滑市
12月8日(土)	【ホームステイ】	【ホームステイ】
12月9日(日)	【ホームステイ】、【関係者との歓送会】 【ワークショップ(報告会準備)】	
12月10日(月)	兵庫県から東京都へ移動 【成果報告会】、 【文化視察】皇居、浅草寺	愛知県から東京都へ移動 【成果報告会】 【文化視察】浅草寺
12月11日(火)	帰国	

3. プログラム記録写真

【インドネシア・シンガポール】(東京都)

	
12月4日【オリエンテーション】	12月5日【テーマ関連の視察】 東京国立近代美術館工芸館 (シンガポール)
	
12月5日【日本理解講義の聴講】	12月5日【文化視察】江戸東京博物館 (シンガポール)
	
12月10日【成果報告会】	

【インドネシア】(大阪府・兵庫県)



12月6日【関係者との意見交換会】神戸インドネシア友の会



12月7日【学校交流】大阪国際大学



12月9日【地域住民・関係者との歓送会】

【シンガポール】(愛知県)



12月6日【学校交流】中京大学

12月6日【文化体験】
徳川美術館・徳川園



12月7日【テーマ関連の視察】
とこなめ陶の森 陶芸研究所

12月7日【地域概要の聴講】常滑市

	
12月7日【文化体験】陶芸	12月9日【関係者との歓送会】

4. 参加者の感想（抜粋）

インドネシア学生

私は生まれて初めて日本の大学教員から直接的に日本文化についての授業を受ける機会を得ました。また、インドネシア語を学ぶ日本人学生（東京外国語大学インドネシア語専攻）と意見交換することも私にとっては初めてで、大変貴重な体験でした。大阪国際大学での交流では、大変フレンドリーな学生の皆さんととても仲良くなることができました。

インドネシア学生

私を受け入れてくださったホストファミリーはとても親切で、家はとても整頓されてきれいでした。私たちに連れて行ってほしい場所を聞いてくれて、日本の海や温泉に行きたいと私が言うと、全て希望をかなえてくれました。私たちは日本語がほんの少ししか話せませんでしたが、4か月前にインドネシアから留学に来ている留学生を誘ってくれ、外出する際は意思疎通の手伝いをしてくれました。ホストファミリーはインドネシアのことをよく知っており、インドネシアに行った経験もありました。日本人の一般家庭で数日を過ごすことができ、とても楽しかったです。日本は犯罪率も低く、ゴミのかけらさえも散らかっていません。このような日本人の良き習慣をインドネシア国民も見習い、それが根付くことを願ってやみません。

インドネシアの学生

初めての来日で、日本の寒さや食事、日本人の方々とちゃんと交流できるか心配していたのですが、実際に来日し様々な活動をするうちに日本での日々が楽しくて仕方なくなりました。空気はきれいだし、食事も私たちの国の料理と大きな違いはなく、インドネシアにある日本食よりもずっとおいしかったです。また、多くの日本人がインドネシアの文化や言語を勉強していることを知り、誇りに思うとともに、日本人が規律と秩序をもって順番待ちをする姿にも感動しました。

シンガポールの学生

常滑市の女性職員は街を愛し熱心に講義をしてくれました。招き猫の発祥地が常滑ということを知りましたが、多くの人はそのことを知りません。大学生と環境問題について話し合い解決策を考えたことは世界が直面している問題を考える機会となりました。常滑陶芸研究所は素晴らしく、「土」のことを学び理解するのに最適な場所です。この体験からたくさんのことを学びました。ホームステイではホストファミリーのおかげで日本文化をもっと理解することが出来ました。日本の生活様式は本当に貴重です。日本文化はユニークで世界に誇れる価値があります。このプログラムからたくさんのことを学

びました。両国の関係を築く役割を果たしたいと思います。

シンガポールの学生

中京大学での交流は画期的でした。交流を通じて、私たちは多くの共通点を持っていることがわかりました。常滑市役所の講義は、街の歴史を理解するのに役立ちました。特に、ホームステイは忘れられない経験です。自分の家族の一員として迎えられ、日本人の価値観や文化を学ぶことができました。私は、茶碗づくりに自信を持つことができました。とても静かな環境で美しい器を作りました。

シンガポールの学生

日本人学生との交流は面白く、プレゼンテーションは英語と日本語の両方を使って準備しました。英語と日本語で日本人学生とコミュニケーションできたことは楽しかったです。常滑市役所では洞察に富んだ情報を得て、街のことをより理解することが出来ました。ホストファミリーとの時間は日本文化を直接に体験することができ、また、日本人の子供の育て方を学び、日本語を練習することができました。常滑での陶芸体験は常滑の土で作品を作るという貴重な体験でした。

5. 受入れ側の感想

◆ 大学生（大阪国際大学）

私は今回、ダルマプルサダ大学の皆さんと交流できて、たくさんの学びがありました。特に印象に残ったのは、昼食の時でした。学内の食堂で一緒にとったのですが、ダルマプルサダ大学の学生は、日本の料理の味付けが足りないのか、学食に置かれている調味料をいくつも試していました。私も9月にインドネシアの短期研修に参加したのですが、その時の現地の料理がおいしかったと話すと自分たちが持ってきたサンバルをくれました。それをかけて食べてみたところ、皆大変喜んでくれ、それから話が盛り上がりました。食べ物の味は、インドネシアと日本では、ずいぶん違うようですが、インドネシアの調味料を使い食を共にすることで仲間意識が高まったのかもしれない。その後の活動もより仲良くできたと思います。食事は、言葉や文化を超えた関係を作ることができるのだと、あらためて感じました。

◆ 大学関係者（大阪国際大学）

本学の学生にもたいへん良い刺激になったと思います。特にインドネシアへ研修に行った学生にとっては、良い勉強でした。彼らはインドネシア語にも関心が高く、勉強もしていて実践的な会話ができる良い機会となりました。また、日本文化紹介としての和菓子作り体験は日本人学生にとっても難しい体験でしたが、日本らしい体験を通して、日本文化の素晴らしさを再発見し、ともに学ぶことができました。全体的に笑顔の絶えない平和な時間が印象的でした。当初の予定にはなかったものの、本学学生のためにアチエダンスを披露してくださり、お互いの文化交流をすることができたのも大変良かったです。ダルマプルサダ大学の皆さんが帰られてから、本学の学生に聞いたのですが、最後に「あなたに会えてとてもよかった。うれしかった。」とインドネシア語で言ってもらったとたいへん喜んでいました。今回の訪問団の受け入れを通じて、インドネシア人の優しさや、インドネシア文化、イスラム文化習慣への気づきもあり良い経験が出来ました。

◆ **ホストファミリー（インドネシア学生の受入）**

インドネシアの学生に農業体験をしてもらい、お芋を食べて楽しみました。また、ルミナリエには感動してくれたので、行ってよかったです。子どもたちとも積極的に一緒に遊んでくれました。

◆ **大学関係者（中京大学）**

シンガポールの学生と交流することで、多様な価値観や考え方に触れることが出来て、視野が広がりました。こうした国際交流活動を通じて、今後、様々な国の人々と交流をしてみたいと思いました。今回の交流で、英語力を鍛えたいとも思いました。言葉の心配がありましたが、シンガポールの学生は、積極的にコミュニケーションを取ろうとしてくれたので、とても楽しい、思い出深い交流になりました。

◆ **大学関係者（中京大学）**

言葉の意思疎通に心配をしていましたが、シンガポールの皆さんは言葉の壁を気にせず、絵を書いたりスマホで訳したりして、積極的に和気あいあいと理解しあい、会話が弾んでいて、良かったです。グループ発表では、自然に英語と日本語での相互発表となり、日本人学生もシンガポール学生も、各々のアイデアを皆に知ってもらいたいという意欲的なプレゼンテーションを行うことが出来ました。

◆ **ホストファミリー（シンガポール学生の受入）**

シンガポールの学生とたくさん話をして、いろいろと勉強することが出来ました。とても可愛い学生さんで、家の中が明るくなりました。イスラム教についても理解が深まりました。臨空ビーチでの夕焼け、玉ねぎが干してある様子等、常滑市でしか見られない光景を楽しみながら写真を撮っていたことが印象的でした。国際交流として、こうしたプログラムは、ホストファミリーにも大変良い活動ですので、是非継続してほしいと思います。

6．参加者の対外発信

	
【インドネシアの学生】ゴミも日本人にはかないません。地位がどんなに高い人でも、めんどくさがらず、汚れるのを厭わず、地域の清掃をしています。	【シンガポールの学生】陶芸で有名な街、常滑で、器を作りました。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

 WHAT WE ARE GOING TO DO AFTER THE PROGRAM TO WHOM WILL WE DO IT -Student of Dharma Persada University -Jakarta citizen -Canteen's Staff WHAT WE ARE GOING TO DO AFTER THE PROGRAM What we'll do and how we'll do it? -Make line for queue in campus -Mutual cooperation in Bundaran Hotel Indonesia -Make trash can which helps students throw rubbish	【インドネシア】ダルマプルサダ大学 で、以下の事実実施します。 構内で整列をするマナーを推進します。 私たちの大学と Bundaran Hotel Indonesia で協力し、日本人のおもてなし、マナーを学生とスタッフに対し推進します。 構内の食堂に分別対応のごみ箱を設置し、学生にごみ分別を推進します。
 WHAT: • using Tokoname clay to make pottery pieces for an exhibition in NIE gallery (artworks + photos + video) • masterclass with Mamikato-san How are we sharing photos? Instagram: @vpaxjapan @friendsofvpa Facebook: Jenesys 2018 NIE VPA Exchange Hashtags: #vpaxjapan #jenesys2018 #jice #singapore	【シンガポール】 プログラムでの発見や体験を、写真、インスタグラム、又はフェイスブックを利用し、多くの人達と、共有します。 常滑の土を使って作品を作り、学校のギャラリーで展示し、日本の文化を紹介します。 とこなめ陶の森 陶芸研究所の加藤真美 氏を招き、日本関連の講義を実施してもらいます。